

4. 調査結果の集約

ＯＨＰを効果的に活用するための方途をさぐるため、各設問からの問題点をまとめ、その解決のための課題を考えてみた。

設 問	問 題 点	課 題
1. 教育機器の利用状況	① ＯＨＰの利用度は高いが、ＯＨＰに片寄りすぎているくらいがある。 ② 16ミリ映写機の利用が、フィルムの充実の割合には少ない。 ③ ＶＴＲ・スライド映写機など、特性に応じた機器の活用が少ない。	1. ＯＨＰだけでなく、学習のねらいに応じ、他の機器の活用を考える。
2. ＯＨＰに関する関心	① ＯＨＰに関心をもつ先生方は多いが、授業の際のＯＨＰの活用に関心を持っていない。	2. ＯＨＰについての関心を、授業での積極的な活用に関心を持っていく。
3. ＯＨＰの保有台数	① 学級数に対する保有率は、小規模校が高く、中・大規模校は低い。 ② 学級数の6割以上を、最低設置数量と考えないと不便な場合もある。 ③ 常に整備点検し、いつでも使用可能な状態にしておく必要がある。	3. ＯＨＰの購入だけでなく、現有備品の整備・修理で使用可能にする。
4. ＯＨＰの利用状況	① 年数回から月1～2回が大部分で、利用状況は必ずしもよくない。 ② 中学校には、全く使用しない先生が16%もいる。 ③ 教科によって利用状況に片寄りがみられる。	4. 利用状況が低いので、教科の特質に応じた使用法を工夫する
5. ＯＨＰ利用のねらい	① 知識の理解にのみ使用せず、共同思考にも活用したい。 ② 教科中心の使用が多いので、道徳・特別活動などにも活用したい。 ③ 教師だけの利用でなく、児童生徒にも利用させ、自ら学ぶ学習を進めていきたい。	5. 知識理解・教科中心・教師中心の使用から、他領域・児童生徒の活用などに広げていく。
6. 市販ＴＰの在庫量	① 市販ＴＰの在庫量が不足している。 ② 市販ＴＰの不足が、製作時間の不足と相まって、ＯＨＰ活用の阻害要因になっている。	6. 市販ＴＰの不足もわかるが、現有ＴＰの活用をはかりたい。
7. 授業で利用するＴＰの種類	① 自作ＴＰ使用の割合が高いのに、製作時間の確保が容易でない。 ② 市販ＴＰの効果的な活用がなされていない。 ③ 道具・材料の不足で、ＴＰ自作が困難である。	7. ＴＰの自作を基本に、効率的な活用の面からも市販ＴＰの併用などについて検討する。
8. ＯＨＰに関する研修	① 中学校の先生方の研修の機会が少ない。 ② 研修は、講義だけでなく、ＴＰ製作の実習を含めたものが望ましい。 ③ 研修受講者は、自分だけのものにせず、伝達し、広く普及させたい。	8. 研修機会の増大とともに、研修者による普及伝達に力を入れる。
9. ＯＨＰ活用上の困難点	① ＴＰ製作の時間、道具・材料の不足、ＯＨＰの台数不足、故障、操作、移動が困難など、使用のための前提条件の整備・充実に欠ける。 ② ＴＰ製作の技法がまだ広く知られていない。 ③ 指導過程への位置づけなど、活用法の研究を深めていく必要がある。	9. 製作時間、道具・材料などの確保とともに、研修や授業への位置づけの研究を深めていく。